

分かる快感!

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

室町幕府は何を

主な財源としていたの?

(東京大学 2018年 日本史)



次の文章を読み、徳政令の発布が室町幕府に深刻な財政難をもたらしたのはなぜなのか、またその状況を改善するために幕府はどのような対応をとったか、説明しなさい。

- (1) 室町幕府は1393年より土倉役・酒屋役の課税を始めた。
- (2) 正長・嘉吉の土一揆は、土倉に預けた質物を奪い返したり、借用証書を焼いたりなどした。嘉吉の土一揆はそれに加え、室町幕府に徳政令の発布も求めた。
- (3) 室町幕府は、1441年に嘉吉の土一揆の要求を受けて徳政令を発布したが、この徳政令は幕府に深刻な財政難をもたらした。
- (4) 室町幕府は1455年の賀茂祭の費用を「去年冬徳政十分の一、諸人進上分」によってまかなった。



イラスト・瑞木匠

財源確保に苦勞

課税や道路や港湾での通行税・入港税など、さまざまな形で税を課し、財源をまかなったのです。(1)の土倉役・酒屋役は、土倉・酒屋という金貸し業者に対して課した税のことです。室町幕府が拠点とした京都周辺は、経済が発展していたため土倉・酒屋も多く、土倉役・酒屋役は室町幕府の重要な財源となっていたのです。

土一揆と金貸し業者、幕府の攻防

一方、室町時代には民衆が地域ごとに結集して力をつけ、領主に対して自分たちの要求を訴える動きが出てきます。このような集団を一揆

といい、とくに(2)に書かれているように、減税や借金の帳消しを要求するものを土一揆といいます。徳政令とは、借金の帳消しを命ずる幕府の命令のことです。徳政令が出されれば、質物の奪還や借用証書の焼却で実質的に帳消しにした借金が、幕府にも公式に帳消しを認定されることとなります。

しかし、徳政令により借金帳消しが認められることで、金貸し業を営む土倉・酒屋は経営難に陥り、幕府に土倉役・酒屋役の減税を要求しました。そして、土倉・酒屋からの税にたよっていた室町幕府も財政難に陥ってしまったのです。

この事態に室町幕府はどのように対応したのか、答えは(4)の「去年冬徳政十分の一、諸人進上分」にあります。これは、徳政令を出す際に幕府が新たに課すことにした分一銭という税のことが書かれています。分一銭には、借金をしている民衆が徳政令を発布してもらうために納めるものと、土倉・酒屋が徳政の適用外にしてもらうために納めるものの2パターンがありました。いずれの場合にも幕府の税となるため、室町幕府は徳政令を乱発し、分一銭を徴収して財源とするようになったのです。(Z会・河原井彩)

! 今回の教訓

政府はその時々状況に応じて柔軟に対応し、効率よく税を徴収しました。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。

政府の財源は何か

現代の日本政府の財源は、日本で働いたり物を買ったりする人や、会社などから納められる税金で成り立っていますが、日本の歴史で考えると、多くの時代で、政府の主な財源は「土地に課せられる税」でした。室町時代の前の鎌倉時代も、鎌倉幕府の主な収入源は幕府が所有する土地から納められる税でした。

室町幕府は、幕府が所有する土地が少なく、税収が安定しませんでした。そこで商工業者への